仙波二郎安家の見送り幕　　松江 まち

二十年前、先代の福岡福代次町内会長より連絡を頂いたのが始まりです。新しい町内山車を作る予定で、その見送り幕の制作依頼でした。

人形は仙波二郎安家に決まり、制作資料として小坂部雅利さんが、川越の歴史を調べて下さり、幕の色のコントラストなどにもアドバイスをいただきました。

生地は雨風陽ざしに強く丈夫で格式の高いこぎん織りの麻の生地を選びました。

☆制作にあたっての観点

仙波の山車

見送り幕

①題は「仙波二郎安家波切りの図」としました。衣装は魔除け厄除けを考え鱗文様です。
②曳っかわせで山車が廻る時に、幕の人物も動いて見える様に三面で変化させました。
③夜祭り時に人物が浮き出て迫力が出る様に地色を濃紺に決めました。
④秋祭りなので、秋の襲(かさね)色である龍胆(りんどう)を選び表は濃い縹(はなだ)色、裏は紫にしました。
⑤変色や退色しない様に地色も差し色も全て鉱物由来の顔料を使う事にしました。

☆作業の工程

①下絵を出来上がり寸法と同じ二米四方の紙に人物の動きに合わせ三面三枚描く
② 一枚の絵を八枚に切り分け、合計二十四枚の型紙を渋紙で彫る
③漆(うるし)で紗張(しゃばり)をする
④生地に型紙を乗せ、もち粉と糠(ぬか)の糊を置く
⑤大量の本藍の顔料を大豆の搾(しぼ)り汁で溶き、何度もムラ無く引き染めをする
⑥一時間程、強火で蒸す
⑦水洗いをして、糊を落とす
⑧美藍(みあい)、本藍(ほんあい)、青磁、黄土(おうど)、弁柄(べんがら)、墨の顔料を溶き、手差しで描き入れる仕上げの縫製は仙波町内の仕立て「正起」の吉川さんにお願いして綺麗に出来上がりました。

十七年の年月が過ぎましたが町内の皆様の丁寧な保存により今も祭礼時は山車と共に巡行中です。本当に有り難うございます。